



光り輝く 未来のために

～よりよい教育環境を目指して～

君津市学校再編

第1次実施プログラム

平成29年1月
君津市教育委員会



目 次

第1次実施プログラムについて・・・・・・・・・・	1
--------------------------	---

I 統合について・・・・・・・・・・	2
--------------------	---

1 統合の趣旨・・・・・・・・	2
-----------------	---

2 小糸・清和地区・・・・・・・・	3
-------------------	---

3 小櫃・上総地区・・・・・・・・	4
-------------------	---

II 幼児教育・保育について・・・・・・・・・・	5
--------------------------	---

1 新たな幼児教育・保育について・・	5
--------------------	---

III 特色ある学校づくりについて・・・・・・・・	6
---------------------------	---

1 小中一貫教育・・・・・・・・	6
------------------	---

2 コミュニティ・スクール・・・・・・・・	7
-----------------------	---

IV 通学区域の見直しについて・・・・・・・・	8
-------------------------	---

V 適正規模・適正配置を目指して・・・・・・・・	9
--------------------------	---

<関連データ>

第１次実施プログラムについて

君津市教育委員会では、少子化による児童生徒数の減少や学校の小規模化が進行する中、子どもたちにとってよりよい教育環境の整備を進めるため、平成２６年１月から、庁内組織である学校教育環境整備検討委員会等で調査・研究を行うとともに、平成２７年８月からは、学識経験者等の外部委員による学校再編有識者会議を設置し、時代にあった学校再編のあり方について意見をいただき、学校再編基本方針及び学校再編基本計画について検討してきました。

この間、各中学校区における「地区説明会」、「小・中学校の適正規模に関するアンケート調査」や中学校合同生徒会、パブリックコメントなど様々な機会を通して、学校再編に対して、保護者や生徒、地域、学校関係者などから貴重なご意見をいただけてきました。

このように、幅広く市民の方々や関係各方面からの意見等を踏まえながら検討を重ね、平成２８年３月に『学校再編基本計画』を策定しました。

この基本計画では、平成２８年度を初年度として、１０年後の平成３７年度を目標年次とし、実施に当たっては、具体的な再編メニューの対象校や実施時期等を示した実施プログラムに基づき、推進することとしています。これまでの市民の皆様からの意見や、各学校の課題、地域の実情等を踏まえた上で検討を重ね、『第１次実施プログラム』としてとりまとめました。

このプログラムは、「統合について」、「幼児教育・保育について」、「特色ある学校づくりについて」、「通学区域の見直しについて」、「適正規模・適正配置を目指して」の５つの柱で構成され、平成２８年度からの具体的な取り組みを示しています。

なお、今後も引き続き基本計画に基づき、学校再編の検討を進めていきます。順次実施プログラムを作成し、その都度、地区説明会やパブリックコメント等を実施し、幅広く意見をいただきながら、基本計画の具現化に向けて取り組んでいきます。

1 統合の趣旨

①中山間地域を対象

- ・全ての学校が適正規模の基準を満たすことを目指していますが、複式学級・単学級の学校が多く、その解消が急がれる中山間地域を第1次プログラムの対象としました。

②10年間の基本計画推進期間内（H28～H37）で

□小学校・・・複式学級の解消

□中学校・・・最低限クラス替え可能な規模（1学年2学級以上）

③地域の実情への配慮

- ・小学校は適正規模を満たさないものの、※¹旧町村に小学校を1校残す

《これまでの経緯》

これまで、有識者会議、保護者アンケート、3回にわたる地区説明会やパブリックコメント、保護者や自治会を対象とした小規模の意見交換、議会での論議など、様々な方法で、多くの方々から貴重な意見や要望をいただきました。

統合に向けて、児童生徒にとってよりよい教育環境にするため、新たな学校づくりを行うには準備期間が短いという意見がありました。

一方で、複式学級が存在することや、学級における児童生徒数が少なく男女比のバランスが悪いことなどの理由から、その対応を望む意見もありました。

また、地域コミュニティの核としての学校の存在や、統合に伴う児童生徒や保護者の通学に対する負担などから、統合対象校や使用校舎の見直しや段階的な統合について要望もありました。

それら全ての意見や要望を受けて、原案を見直し段階的に統合を行う案や、統合の前倒し等についても検証を行ってきました。

決定にあたっては、学校再編の理念に照らし、これまでいただいていた全ての意見、児童生徒数の推移、教育活動の面、学校運営面、さらには、受け入れ環境を整えるための施設整備やスクールバスの導入等の財源確保など勘案し、総合的に判断したものです。

※1 旧町村：清和村、小櫃村、上総町

2 小糸・清和地区

対象校	使用校舎	実施年度	備 考
小糸中学校 清和中学校	小糸中学校	H31年度	通学手段の確保
秋元小学校 三島小学校	清和中学校	H32年度	通学手段の確保 中学校校舎から小学校校舎への改修
中小学校 小糸小学校	中小学校	H33年度	通学手段の確保

《経緯》

清和中学校は、単学級であり、適正規模を下回っている現状です。また、清和地区の小学校2校は、複式学級を有している状況であり、課題となっています。今後も児童生徒数に大きな増加は見込まれず、適正規模に満たない見通しとなっています。

これまで保護者や地域関係者から寄せられた様々な意見や要望を参考に、教育活動の充実や地域振興などの観点も踏まえた上で総合的に判断し、小糸中学校と清和中学校を統合することとしました。

また、秋元小学校と三島小学校については、複式学級を解消するため2校を統合することとしました。統合しても適正規模を満たしませんが、清和地区に学校を残すこととしました。

小糸小学校は、平成28年度現在すべての学年が単学級であり、中小学校も単学級の学年が存在しています。両校とも今後も児童数は減少する見通しとなっています。そのため地域関係者や保護者の意見を参考に、教育活動、地域振興など総合的に判断した上で2校を統合し適正規模を求めることとしました。

また、清和地区においては「地域懇談会」が設立されており、これまでも協議を重ねてきました。今後も、地域振興に資する跡施設の活用方法など、学校再編の理念に沿った有効な提言がなされ得ることも考慮し、協議を継続していきます。

《再編の内容》

- 統合にあたっては、これまで各学校・地域で培ってきた文化や特色ある取り組みの継承などにも配慮します。
(例えば「新聞を活用した学習(NIE)」、「清和学」などの地域学習)
- 地域の人材等を積極的に活用し、体験的な学習を取り入れるなどして、それぞれの地域を愛する児童生徒の育成や、地域とともにある学校づくりの視点にも配慮します。
- 統合による跡施設については、学校以外の教育機関としての活用や、地域振興の一助となるような活用方法について、地域関係者との協議も踏まえ、教育委員会だけでなく君津市全体で連携して取り組んでいきます。

3 小櫃・上総地区

対象校	使用校舎	実施年度	備 考
小櫃中学校 久留里中学校 松丘中学校 亀山中学校	小櫃中学校	H32年度	通学手段の確保
久留里小学校 松丘小学校 坂畑小学校	久留里小学校	H33年度	通学手段の確保

《経緯》

小櫃・上総地区の中学校4校は、単学級であり、適正規模を下回っている現状です。今後も生徒数の大幅な増加は見込まれず、適正規模に満たない見通しとなっています。そこで、教育活動の充実等を考慮し、中学校4校を統合することとしました。

小櫃・上総地区の小学校4校も、単学級であり、特に上総地区の小学校は複式学級を有している状況で、課題となっています。今後も児童数は減少傾向にあり、複式学級の数も増加することが見込まれています。

このような状況から、上総地区の複式学級を解消するため、久留里小学校と松丘小学校と坂畑小学校を統合することとしました。統合をしても適正規模を満たしませんが、これまで地域関係者や保護者等から寄せられた様々な意見を参考に、教育活動や地域振興、発達段階を考慮し、3校を統合し上総地区に学校を残すこととしました。

《再編の内容》

- 統合にあたっては、これまで各学校・地域で培ってきた文化や特色ある取り組みの継承などにも配慮します。
- 地域の人材や学習材を積極的に活用し、体験的な学習を取り入れるなどして、それぞれの地域を愛する児童生徒の育成や、地域とともにある学校づくりの視点にも配慮します。
- 統合による跡施設については、地域振興の一助となるような活用方法について、地域関係者からの意見も参考にしながら、教育委員会だけでなく君津市全体で連携し取り組んでいきます。

Ⅱ 幼児教育・保育について

《新たな幼児教育・保育について》

対 象	実施年度	取り組みの概要
周 西 幼 稚 園	H32年度	人見保育園に、周西幼稚園の幼児教育を取り入れ、認定こども園へ移行します。

《経緯》

周西幼稚園は昭和41年に開園し、ピーク時の昭和60年には212名が在園していました。その後も200名前後の園児がいましたが、時代の流れとともに園児数が減少し、平成27年には67名となりました。

社会情勢の変化に伴う保護者ニーズの多様化、安全な環境の提供、望ましい教育的効果のために一定規模の集団を確保することや私立幼稚園との共存など、様々な課題に直面する中、平成29年度の新入園児募集を停止し、学校再編の枠組みの中で、具体的な方策を検討することとしました。

保護者ニーズ、公の役割、保育園の待機児童の問題なども踏まえ、これからの幼児教育・保育のあり方について検討を重ねた結果、人見保育園に、周西幼稚園で培われたスキルやノウハウを継承し、幼児教育と保育の融合を図り、よりよい幼児教育・保育の実現を目指すこととしました。

なお、現在の人見保育園を認定こども園へ移行する先行的な取り組みであり、幼稚園枠の定員については、若干名とします。

今後、先進事例の収集・分析を経て運用手法を定め、君津市の新たな幼児教育・保育施設「君津市版認定こども園」の移行に向け準備を進めます。

また、移行期間においては『準備室』を設置し、幼児教育を求める保護者に対する支援を行います。

《目指す姿》

○周西幼稚園で培ったスキルやノウハウを継承し、時代に合った幼児教育と保育の発展的融合を図ります。

○様々な就学前児童が、幼児教育・保育を受ける均等な機会を確保するための一助とします。

Ⅲ 特色ある学校づくりについて

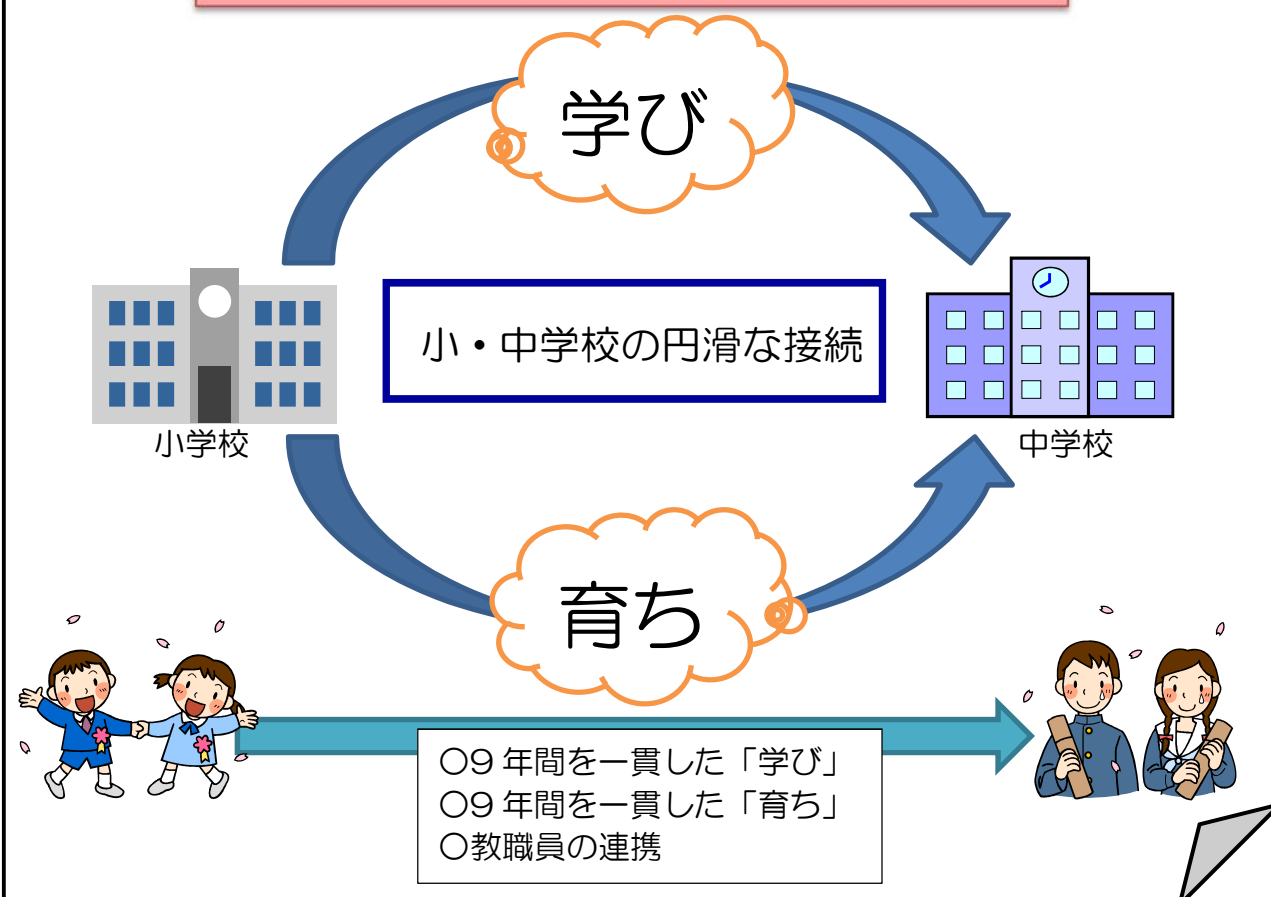
1 小中一貫教育

対象校	実施年度	取り組みの概要
周南中学校区	H30年度	周南小、周南中学校を施設分離型の小中一貫教育拠点校として設置します。

《具体的な取り組み内容》

- 本市の小中一貫教育の方向性を示す君津市版小中一貫カリキュラムを作成します。それをもとに、拠点校において9年間を見通した具体的な取り組みを実施します。
- 小・中学校が共通の「目指す児童生徒像」や「教育目標」を設定します。
- 教科指導の連続性や小学校から中学校への円滑な接続を図るため、9年間を一貫したカリキュラムで学びます。
- 中学校教員が小学校で授業を行ったり、小学校教員が中学校でチームティーチングを行ったりして、相互の授業に関わりきめ細やかな指導を行います。
- 小学1年生から中学3年生までの幅広い異学年での交流により、社会性・協調性を育てます。

施設分離型小中一貫教育（イメージ図）



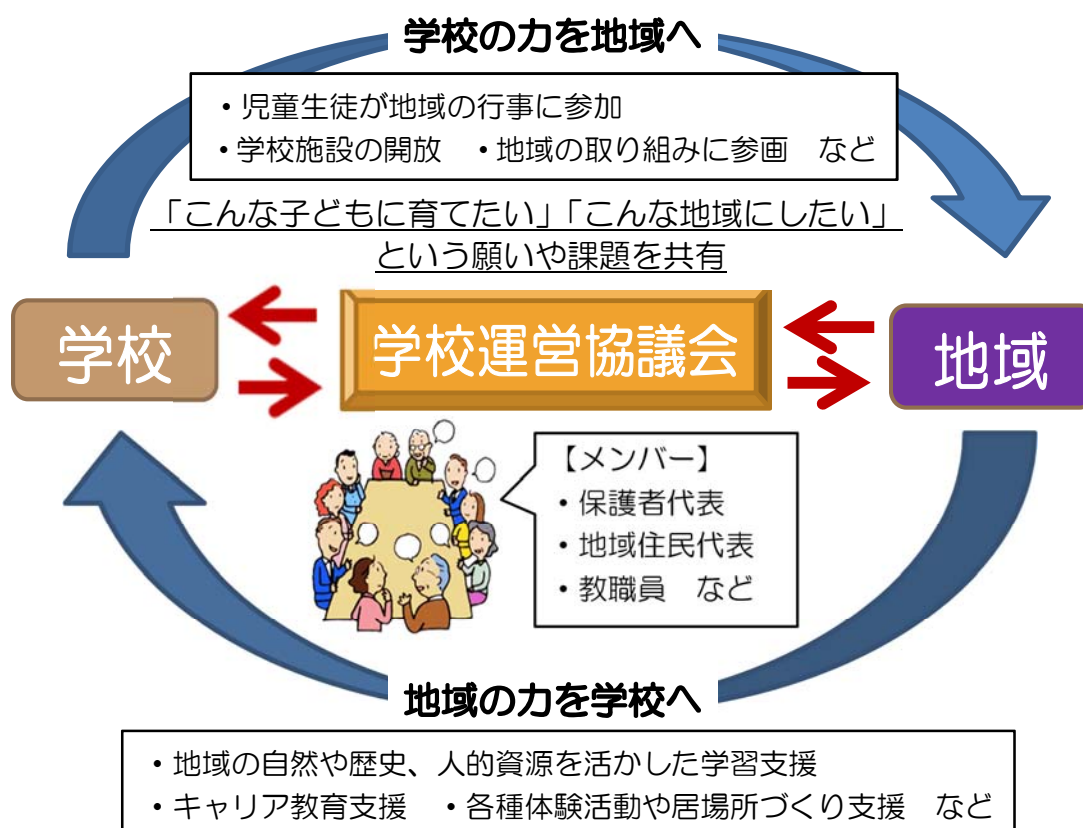
2 コミュニティ・スクール

対象校	実施年度	取り組みの概要
周西南中学校区	H30年度	周西小学校、周西南中学校をそれぞれコミュニティ・スクールの拠点校として指定します。

《具体的な取り組み内容》

- ・周西小、周西南中学校の両校を「コミュニティ・スクール」として指定します。保護者や地域住民、教職員等で構成される「学校運営協議会」を設置し『地域とともにある学校』を目指します。
- ・学校・地域・家庭が協力し合い、子どもたちをどのように育んでいくか、学校運営協議会での意見交換を通し、共通理解を深めます。
- ・人材やネットワーク等、地域の力を生かした教育活動を展開します。
- ・学校や子どもたちの力を地域に生かす等、地域と学校がともに発展し合う仕組みをつくります。
- ・地域コミュニティの拠点としての学校の役割を生かし、様々な活動を通じて、住民同士の交流を進めます。

コミュニティ・スクール（イメージ図）



Ⅳ 通学区域の見直しについて

統合に伴う通学区域の見直し

区 分		見直し後の通学区域
小 学 校	秋元小 + 三島小	2校の現行通学区域を合わせます
	中小 + 小糸小	2校の現行通学区域を合わせます
	久留里小 + 松丘小 + 坂畑小	3校の現行通学区域を合わせます
中 学 校	小糸中 + 清和中	2校の現行通学区域を合わせます
	小櫃中 + 久留里中 + 松丘中 + 亀山中	4校の現行通学区域を合わせます

《基本的な考え方》

- 通学距離が小学校で概ね4キロメートル以内、中学校で概ね6キロメートル以内、また、通学時間が概ね60分以内を目安（基準）とします。
- 通学距離・時間が基準を超える児童生徒の通学手段については、スクールバスを導入します。

《内容》

- 第1次実施プログラムにおける通学区域の見直しは、統合によるものであり、各対象校の現行通学区域を合わせることとします。
- 通学区域が広範囲になるため、児童生徒の安全な登下校に配慮することを第一に考え、基準を超える児童生徒の通学手段として、スクールバスを導入します。
- スクールバスの運行については、学校関係者や地域関係者、保護者で組織される「統合準備室」の中で、協議を踏まえ決定していきます。
（バスの時刻表や乗降場所等は、通学状況により必要な見直しを行うなど配慮します）
- 通学路に関係する道路施設について、関係部署との協議を行い、登下校の安全対策を推進していきます。

《今後の方向性》

- 統合を伴わない通学区域の見直しについては、児童生徒の通学の状況や地域の実情を調査しつつ、第2次実施プログラム以降で推進します。

V 適正規模・適正配置を目指して

第1次実施プログラムでは、基本計画にあるように、複式学級の解消等の対応が急がれる中山間地域の学校を優先しました。これまで地域関係者や保護者などからの意見も参考に、教育活動の充実や地域振興、児童生徒の発達段階等を考慮し、総合的に判断し、決定しました。

今後も基本計画にあるように「全ての学校が適正規模の基準を満たすよう」、学校の適正規模・適正配置を推進します。

特に、第1次実施プログラムにおいて対象となっていない市街地において推進していく必要があります。中でも、児童数が急増した時期に分離して開校した学校については、今後の児童生徒数の推移を見極め、統合や通学区域の見直しにより適正規模・適正配置を目指します。

また、現在、他校の児童生徒と交差して通学したり、他校の近くを通過して自校に通っていたりする現象が生じている区域についても見直しを行い、その解消に向け取り組みます。

なお、今後も引き続き基本計画に基づき、順次実施プログラムを作成していきます。そしてその都度公表し、地区説明会やパブリックコメント等を実施し、幅広く意見をいただきながら学校再編について取り組んでいきます。

《具体的な取り組み内容》

○第1次実施プログラムにて対象となっていない学校についても、引き続き、本市基準の適正規模・適正配置に向けて、検討を行います。

○特に分離開校した学校について、児童数の動向を踏まえて、統合を検討します。

適正規模を満たしていない学校	八重原小、坂田小、貞元小、北子安小、外箕輪小
上記のうち 分離開校してできた学校	坂田小（大和田小より）
	北子安小（南子安小より）
	外箕輪小（八重原小より）

○第2次実施プログラムでは、統合を伴わない場合の通学区域の見直しも検討します。

学校の適正規模を踏まえた見直し	他校と隣接する地域
通学距離を考慮した見直し	他校の児童生徒と交差し、自校に通っている地域 他校付近を通過し、自校に通っている地域

統合対象校の児童生徒数推移														
小学校	H28		H29		H30		H31		H32		H33		H34	
	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数
中小	10	243	9	217	7	201	7	199	6	172	6	165	6	162
小糸小	6	85	6	79	6	78	6	68	6	76	6	81	6	84
計	12	328	11	296	11	279	11	267	11	248	11	246	11	246
秋元小	5	54	5	54	5	49	4	41	3	40	4	37	4	33
三島小	4	43	4	41	3	35	4	35	4	34	4	29	3	26
計	6	97	6	95	6	84	6	76	6	74	6	66	6	59
久留里小	6	104	6	100	6	94	6	87	6	77	6	64	5	62
松丘小	6	56	6	53	5	46	5	39	4	40	4	35	4	33
坂畑小	4	50	4	50	5	48	4	46	5	44	4	44	4	35
計	7	210	7	203	7	188	6	172	6	161	6	143	6	130
中学校	H28		H29		H30		H31		H32		H33		H34	
	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数
小糸中	7	199	6	193	6	196	6	179	6	172	6	162	6	149
清和中	3	43	3	47	3	51	3	53	3	51	3	48	3	44
計	8	242	8	240	9	247	9	232	8	223	6	210	6	193
小櫃中	4	98	4	100	4	102	4	106	3	92	3	95	3	88
久留里中	3	63	3	58	3	50	3	55	3	57	3	57	3	49
松丘中	3	40	3	31	3	31	3	30	3	30	3	29	3	26
亀山中	3	21	3	20	3	23	3	25	3	24	3	22	3	25
計	7	222	7	209	6	206	7	216	6	203	6	203	6	188

統合対象校以外の児童生徒数推移														
小学校	H28		H29		H30		H31		H32		H33		H34	
	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数
八重原小	11	262	11	260	11	257	10	248	10	249	10	236	10	231
南子安小	20	617	18	592	18	575	18	570	18	567	18	544	18	563
周西小	18	586	18	564	18	536	18	516	17	498	17	476	16	458
大和田小	12	316	12	318	12	324	12	344	13	360	14	401	14	445
坂田小	8	220	7	213	8	214	9	226	9	229	9	227	10	248
貞元小	9	238	10	272	12	317	13	351	13	363	13	387	13	401
周南小	16	461	15	439	14	427	13	417	13	400	12	388	12	366
小櫃小	7	194	6	175	6	175	6	162	6	154	6	145	6	133
北子安小	9	225	9	221	9	228	9	226	10	236	10	249	11	253
外箕輪小	6	191	6	178	6	181	6	177	6	171	6	170	6	162
中学校	H28		H29		H30		H31		H32		H33		H34	
	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数	学級	人数
君津中	17	566	16	574	16	558	16	539	16	520	16	539	15	541
周西中	9	277	8	266	8	259	9	268	9	265	9	267	9	268
周南中	6	199	7	212	8	233	9	242	9	228	8	230	7	219
周西南中	10	302	9	303	9	314	9	303	9	300	9	299	9	283
八重原中	9	243	8	232	8	231	8	227	8	219	7	229	7	226